

[遺伝資源の収集・評価・保存]

ノラボウナ簡易ハウス栽培における播種期・育苗期間・保温開始時期の影響

野口 貴・荒木俊光・海保富士男
(園芸技術科)

【要 約】ノラボウナの花芽分化時期は12月中旬であり、ハウスにおける保温開始時期は1月上旬が適正である。また、播種や定植時期を早めることで収量が増加する。

【目 的】

ノラボウナは五日市地域を中心に生産される東京の特産野菜である。産地では促成出荷が可能なハウス栽培に関心が集まっている。そこで、ノラボウナの花芽分化時期を特定するとともに、ハウスにおける保温開始時期、播種日、育苗期間などが生育・収量に及ぼす影響を明らかにする。

【方 法】

- 1) 播種日、育苗期間と花芽分化時期の関係：ノラボウナ (TN系統) を2007年8月20日、8月30日、9月10日に条間15cm、株間5cmの栽植距離で地床へ播種した。育苗期間を35～67日の範囲で設定して、順次本舗へ定植した。栽植密度は、条間60cm、株間35cmとした。12月20日、12月27日に生育および茎頂の花芽分化について調査した。
- 2) 播種日・育苗期間・ハウス保温開始時期と収穫期・収量の関係：上述の条件で育苗した苗を簡易ハウスへ定植した。2007年12月14日、同29日または08年1月11日からハウスの保温を開始した。日中は25℃を目安にサイド部分を開閉し、3月25日からは終日解放とした。なお、対照区はフィルム被覆による保温を行わなかった。基肥は3要素成分量で各15kg/10aとし、追肥は窒素成分量で5kg/10aを2回施用した。

【成果の概要】

- 1) 花芽分化期の生育をみると、播種日が早く、育苗期間が短いものほど草丈や株重が大きかった(図1)。
- 2) 花芽分化は12月14日では確認できなかったが、12月20日には分化初期～花房分化期に、12月27日には花房増加期に達していた(図2)。育苗期間が短いほど分化が進んでいたが、その差は数日程度であり、いずれの株も12月中旬に花芽分化すると判断された。
- 3) ハウスの保温開始後の内部気温は対象に比べて平均で2℃高かった(図3)。
- 4) 収穫開始時期は、播種日が早く、育苗期間が短いものほど早まる傾向にあった。対照区の収穫開始時期は3月中下旬であり、保温することによって収穫開始時期が11～20日早まった(図4)。
- 5) 収量は8月20日播種で最も高かった(図5)。育苗期間は35日と45日では大差がなかったが、66日では明らかに減少した。
- 6) いずれの保温区も対照区に比べて収量が高かったが、特に、1月11日に保温を開始した区で高い傾向にあった(図5)。
- 7) 以上の結果から、ノラボウナの花芽分化時期は12月中旬であり、ハウスの保温開始時期は1月上旬が適正である。また、播種や定植時期を早めることで収量が増加する。

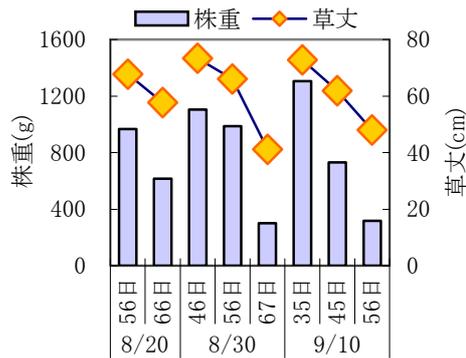


図1 播種日・育苗期間が花芽分化期の生育に及ぼす影響(12月20日調査)

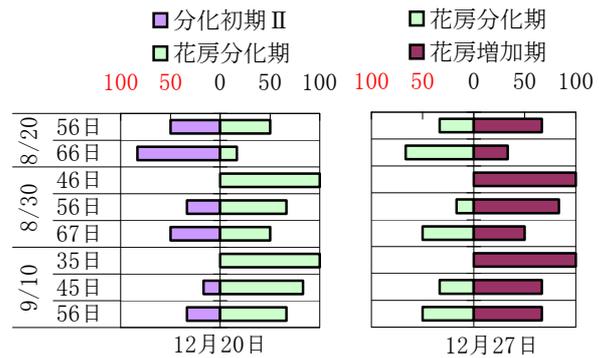


図2 播種日・育苗期間の違いと花芽分化のステージ(12月20日および12月27日調査)

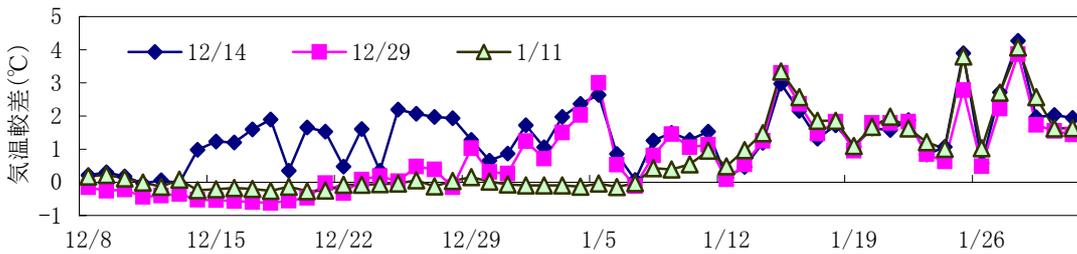


図3 簡易ハウスにおける保温開始時期と保温後の気温上昇(対照区(無保温)との較差)



図4 播種日・育苗期間・保温開始時期の違いとラボウナの収穫期間(花茎重20g以上)

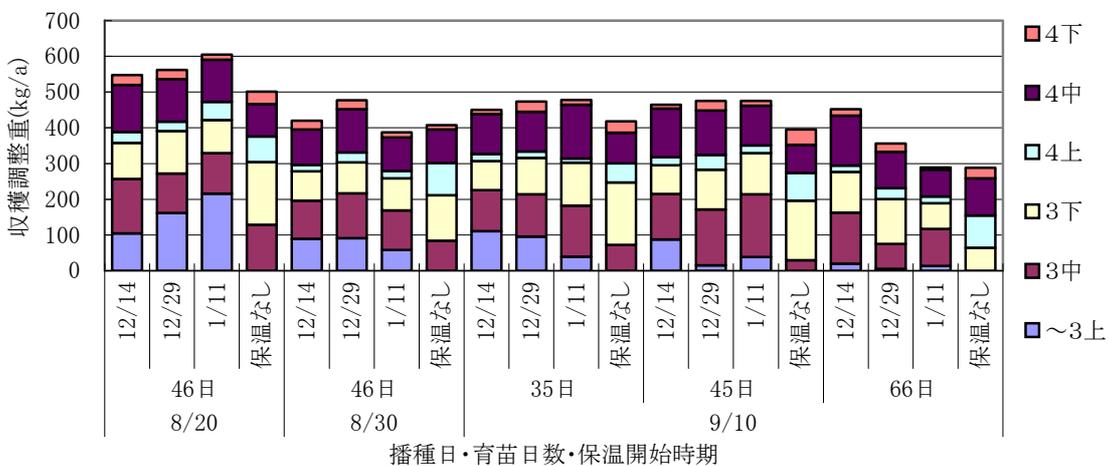


図5 播種日・育苗期間・保温開始時期が収量(調整重, 旬別)に及ぼす影響